



2021年5月

カレンダーアウトルック

今月の外為マーケット動向

WesternUnion **WU**

Business
Solutions

USD

ジョー・マニボ, カレンシーストラテジスト - 北米

5月イベント

3日 水曜日
ISM製造業購買担当者景気指数 (PMI)

5日 水曜日
ISM非製造業購買担当者景気指数 (PMI)

7日 金曜日
非農業部門雇用者数

12日 水曜日
消費者物価指数 (CPI)

14日 金曜日
小売売上高

21日 金曜日
中古住宅販売件数

27日 木曜日
第2四半期GDP (改定値)

28日 金曜日
シカゴ購買部協会景気指数 (PMI)

4月のレビュー

米国では好景気の兆候が拡大しているが、米連邦準備理事会 (FRB) が予見可能な将来にわたって低金利を継続する方針を示したことから、米ドルは軟化した。ドル指数は第1四半期に3.6%上昇し、2018年以来最高のパフォーマンスを達成した後、過去7週間の最低水準まで下落している。大胆な刺激策により世界最大の経済である米国経済は勢いを増しており、3月の雇用者数の増加は過去7カ月で最高となる90万人を超え、小売売上高の上昇幅も9.8%と過去10カ月で最高となった。こうした状況にもかかわらず、10年物米国債利回りは、過去14カ月で最高となった1.77%前後から1.60%を切る水準まで下落した。

- 好景気の兆候が拡大しているが、市場はFRBの低金利方針を反映した動きとなっている。
- FRBの低金利ガイダンスによって株式市場が支えられ、米国債利回りが低下した結果、米ドルの魅力は減少した。
- 1週間当たりの失業保険申請件数はパンデミック発生後初めて60万件を下回り、消費者信頼感指数は過去1年間の最高水準まで上昇した。

5月の見通し

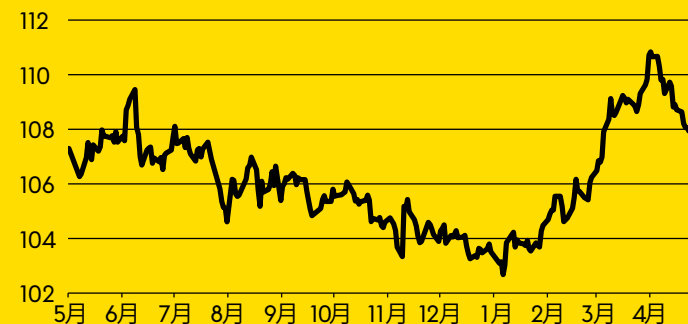
米ドルの方向性の決定要因である米国債利回りは、第2四半期も主要なテーマであり続けられると思われる。景気が大きく上昇し続ける場合、利回りを長期にわたり低水準に維持することは困難になる可能性がある。FRBの次回の政策決定会合は6月中旬に予定されており、経済と金利に関する予測が更新される。FRBは米ドルに不利な低金利政策を後退させる前に、米国経済の「さらなる大幅な前進」を確認したい考えだが、強気な経済データが積み重なればその方向性が見えてくるだろう。

- 今後のFRB方針については、雇用とインフレ率データが鍵となる。
- FRBはインフレ率の上昇を「一過性」のものと予想している。
- 年初来のドル指数は約1%上昇した。

経済データ

基準金利:	0-0.25%
GDP (年率):	4.3%
インフレーション (年率):	1.4%
失業率:	6.0%
貿易収支:	711億ドル (赤字)

ドル/円 (直近一年)



5月イベント

6日 木曜日	小売売上高
11日 火曜日	ドイツ投資家センチメント指数
14日 金曜日	4月のECB会合議事録
17日 月曜日	ユーログループ会合
18日 火曜日	第1四半期GDP (改定値)
21日 金曜日	PMI調査 (速報値)
28日 金曜日	景況感指数

4月のレビュー

ユーロは再び上昇し、第1四半期の損失の一部を取り戻した。EUでのワクチン接種が加速していること、および新型コロナウイルス対策の規制強化にもかかわらず経済活動の底堅さを示す調査結果が発表されたことによって、欧州経済の2021年後半の見通しに対する悲観論は相殺されている。株式市場の世界的な回復と欧州株指数の高値更新により、対北米通貨や対英ポンドでのユーロへの関心が再び高まっている。

- 欧州委員会は、6月末までに成人の70%にワクチンを接種できると予想しており、これまでの目標をやや前倒しした。
- PMI調査によれば、欧州での新たな規制の導入にもかかわらず、3月の民間セクターにおける活動の拡大は過去8カ月間のピークに達した。
- ユーロは欧州の証券取引所での高値更新に支えられ、第1四半期の対米ドル (1.21ドル) および対カナダドル (1.52カナダドル) の下落の半分を取り戻すとともに、対円 (131円) での年初来高値を更新した。

5月の見通し

複数の欧州主要国で制限が緩和され始めることから、ユーロは5月も好調を維持する可能性がある。数カ月続いた制限の後で民間消費が大きく拡大すれば、ユーロ圏の第2四半期の経済見通しが改善し、ユーロのさらなる回復もあり得る。また、EUにおけるワクチン接種が、米国や英国などの主要市場と比較した場合にどのように進捗するかも要因となる。欧州の景気回復にとっては夏季休暇期間が鍵となろう。7月から8月にかけてEUでのスムーズな旅行活動が難しくなる事態が発生すれば、ユーロ需要の後退要因となりかねない。

- 今月の注目トピックは、ワクチン接種の進捗状況、EU復興基金の実施に関する議会投票、欧州ワクチンパスポート計画に関する各国交渉である。
- ユーロ圏と他の地域の経済面および金融面での相違は、ユーロのボラティリティ要因としては一時的に見過ごされてきたが、今後再び注目が集まる可能性がある。
- 4月の力強い上昇の後、ユーロがさらなる高値を更新するには、新たな触媒となる要因が必要である。それが無い場合、他通貨の軟化に依存することになる。

経済データ

基準金利:	0.0%
GDP (年率):	-4.9%
インフレーション (年率):	1.3%
失業率:	8.3%
貿易収支:	177億ユーロ

ユーロ/円 (直近一年)



5月イベント

4日
火曜日

Caixin製造業購買担当者景気指数 (PMI)

6日
木曜日

Caixinサービス部門購買担当者景気指数 (PMI)

7日
金曜日

貿易収支

17日
月曜日

鉱工業生産

17日
月曜日

小売売上高

20日
木曜日

ローンプライムレート

4月のレビュー

中国人民元は2021年第1四半期に大きく軟化したが、4月には強さをやや取り戻した。

3月31日までの12カ月間のGDP成長率が18.3%に大幅上昇するなど、先月の中国経済は、2020年初頭の悪影響の反動で好調なデータを示した。

中国人民元は、3月に過去5カ月間の底を打った後、順調に上昇した。

- 対米ドル相場は過去3年間の最高水準に向かって上昇している。

5月の見通し

2021年の第1四半期は、米国経済の急成長に注目が集まった結果、中国人民元の注目度が低下し圧力にさらされた。

しかし、米ドル（および米国債利回り）の再評価は4月になると後退し、人民元は立ち直った。

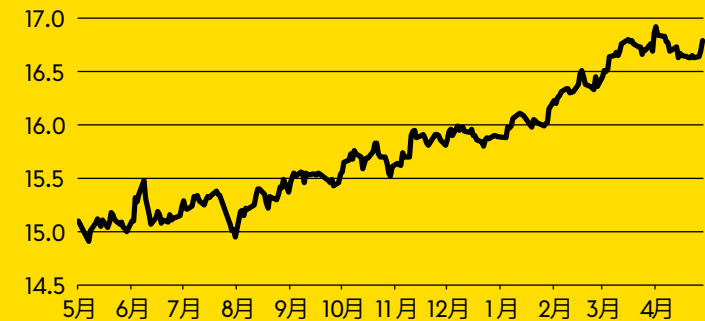
短期的には、米国の経済成長と米国債利回りが、米ドル/人民元相場の動向を左右する支配的要因となる可能性がある。

- 中国人民元は強さを取り戻し、相場は過去数年間の最高水準まで回復している。人民元相場を市場原理に委ねることについて、中国政府の意思が再度試される日も近い可能性がある。

経済データ

基準金利:	3.85%
GDP (年率):	18.3%
インフレーション:	0.4%
失業率:	3.8%
貿易収支:	138億ドル

人民元/円 (直近一年)



Don't let the currency market detract from your bottom line.

WesternUnion 

Business
Solutions

©2021 Western Union Holdings Inc. All rights reserved.

ウエスタンユニオン・ビジネス・ソリューションズは、ザ・ウエスタン・ユニオン・カンパニーの事業部門です。ウエスタンユニオン・ビジネス・ソリューションズ・ジャパン株式会社(「WUBSKK」)を通じて日本で事業を展開しています。

Western Union Business Solutions (Australia) Pty Limited(以下「WUBSA」)は、楽天銀行に対しWUBSKKが提供するサポートサービスを提供しております。WUBSA & WUBSKKを合わせて「WUBS」といいます。

楽天銀行は、顧客に対してWUBS同等の外国為替および決済サービスを提供することができます(ただし楽天銀行のサービスを利用した場合も当該顧客がWUBSの顧客とはなりません)。本資料カレンダーアウトルックは受領者の一般的な情報収集目的のためにのみ作成されたものであり、WUBSに対するいかなる責任も拘束力も持たないことを確認し、同意することを前提に、本資料を本契約に記載される情報に対する真のビジネスニーズを有する可能性のある顧客と共有することを楽天銀行に許可したものです。情報は十分に注意して作成されていますが、WUBSはその正確性を保証しているものではありません。楽天銀行の顧客は、本資料に記載されている情報を取扱う前に、独自に確認をしてください。WUBSと楽天銀行との関係は、契約に準拠しています。WUBSと楽天銀行の顧客との間には契約関係はありません。 674918407-2021-04